



現校舎

同窓会報

発行
児玉高校同窓会
会長 梅沢 仁
事務局 児玉町八幡山
410 県立児玉高校内

会の発展と 母校の隆盛を



同窓会長 梅沢 仁

厳しい暑さも過ぎ、漸く涼秋の時節を迎えました。会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。日頃本会のために色々ご尽力を頂き、深く感謝致しております。

大正十三年に発足して以来六十年を経過し、現在約七万四千名の会員を持つてになりました。同窓会も、幸いに役員一同の協力と会員の皆様のご理解により、目的達成に向って、一步一步進んでおります。PTA、諸先生方、在校生と力を合せ、会の発展と、母校の隆盛を願うことは大変うれいしいことです。

そのための会の運営推進の方策として四つの柱を樹てました。その第一は記念事業であります。五十八年一月に発行されました会

員名簿がそれです。そして七十周年記念事業がこれからの検討課題です。第二は育英事業です。講演会、各種懇談会、学校行事への参加、母校助成等々です。第三の柱は親睦活動事業であります。新年会、旅行会、観劇会などによる親睦を深める会です。そして第四の柱は広報活動事業であります。会の活動、事業、又は計画に関する事柄、その他につき会員、在校生及び関係各方面に広報する仕事であります。大変重要な部門です。このたび広報委員会の努力で会報が発行されるようになりました。これもその活動の一つであります。次に会員の皆様の絶大なる協力のもとに、整備拡充を計るのが支部会の活発化であります。会活動の根幹は心と心のつながりです。積極的な行動参加を致しましょう。同窓生におかれては、各界にその活躍振りが見られ心強いかがりです。又在校生もすばらしい環境のなかで、勉学に、スポーツにと一生懸命に頑張っている現状であります。これから児高同窓会報も

発行回数をかさねるわけでありすが、役員からとどけられる範囲も限りがありますので、友情の環をひろげてお互いに知らせあっていただければ幸いです。以上会報発行にあたり会の近況を報告し同窓生同志今後ますます緊密な連携をとっていただけるようお願い申し上げます。

と本部役員

- | | |
|-----|-------------------|
| 会長 | 梅沢 仁 |
| 副会長 | 日向千江子、星野ひろ子 |
| 幹事 | 大沢 貞夫、川辺 昇 |
| 監査役 | 武田 広研、貫井 公博 |
| 相談役 | 立川 源定、井上 英夫、中島 俊朗 |
| 理事 | 石井 敏郎(会計兼務) |
| | 永尾 幸夫、栗本美智枝 |
| | 新井いと子、吉川 幸男 |
| | 林 喜一 |
| | 田村 貞一郎、根岸 俊一 |
| | 小林 俊雄、西沢 勇 |
| | 中村 愛子、藤森 フサ武 |
| | 松村 康江、関根 多喜子 |
| | 吉川 音絵、野口多喜子 |
| | 新井 初枝、高木 清憲 |



ごあいさつ

学校長 杉田 仁 次

私は本年四月、六十有余年の歴史と伝統に輝く本校に着任いたしました。もとより非力の者であります。皆様の暖かい御指導と御後援をいただき本校教育のため全力を傾け努力する所存であります。このたび同窓会機関誌の復刊に際し、寄稿できますことを大変光栄に存しております。

本校着任後、日が浅いのですがこの間、同窓会役員会、総会等にお招きを受けいろいろ御指導をいただき、会長さんはじめ皆様が母校に対してどのような期待をされているかその一端をお伺いすることができました。

現在、高校への進学率は九四%に達し本校もこうした中で生徒の多様化が進み、中には高校入学への目的意識を持たないまま入ってくる生徒もでてきています。こうした生徒に対し学習意欲を持たせ、高校生活を意義あらしめるために指導することは現在本校教育の大きな一面になっていきます。自由化

戻り、本校教職員一丸となって生徒の指導にあたりひとり一人の生徒に対してきめ細かい指導を行い、高校生活が生徒にとり張りのあるものになるよう努力しております。同窓会の皆様、また同窓のPTAの方々が多数おられますので御理解と御協力により、学習面においてもクラブ活動においても更に一層の充実をはかり成果をあげていきたいと考えております。

施設・設備の面では皆様の御協力を得て県下有数の中に入る程整備されてきておりますが教育機器の進歩や生徒の多様化に対応するためにはより一層の充実が必要になると思います。現在緊急を要するものとして体育館の改築があります。大変老朽化し危険な状態になってきていますので現在校内で検討中でありませう。

以上いろいろ申し上げましたが最も最善の努力をいたしますので、本校教育に対する同窓の皆様の一層の御理解と御協力をお願いいたします。

☆☆☆☆☆☆

59年度

事業報告

- 4月15日 総会、於東京新宿住友ビル(93名バス2台)芸術座の香華も鑑賞する(80名)
- 11月4日 親睦旅行、於新潟栃尾又温泉(46名バス1台)紅葉と雪の奥只見路を見学する。
- 1月26日 新年会、於本庄埼玉グランドホテル(86名)多勢の出席を得、なごやかに行なわれる。
- 3月7日 入会式及び卒業記念の会、於母校(会長ほか役員出席)
- 3月18日 新入学生説明会、於母校、会長が同窓会事業について説明する。

親睦旅行に参加して

高四 松村 康江
 昨年十一月四日(同)、五日(同)と同窓会の親睦旅行で、西福寺、奥只見電力館の見学と、栃尾又温泉一泊の旅に参加いたしました。よい天気恵まれ、参加者四十

六名は大型バスで一路十七号線を下り、車窓の紅葉に歓声をあげながら三國峠を越え、新幹線浦佐駅近くの西福寺に到着。県重要文化財指定の越後日光とも呼ばれている大彫刻を見学いたしました。

中でも開山堂天井の、色彩豊かな透し彫りの「道元禅師一代記」は、江戸生まれの名工が、三十年もの才月を費して完成させたものだそうです。

また廊下には、はめ木細工が施され、襖絵なども、見ごたえがありその大偉業に胸をうたれ、当時の人の器用さ根気強さに、改めて感心いたしました。

夜は、山合いのひなびた板尾又の、ラジウム温泉で疲れをいやし、かも鍋や山菜料理に舌鼓をうち、味覚の方も大満足。

翌日は、峽谷美の奥只見シルバラインを登りダムに直行、高台の電力館で水力発電の仕組みの説明を聞きました。

周囲の山々にわずかに残る紅葉と、新雪が、湖面に映えての見事な光景は、実に印象深く忘れられない旅の一駒となっております。

尚、御同行をいただきました校長先生からは、学校の現況について詳しくお話を頂き、母校への関心を一層深める事ができ、また先輩後輩との交友も深まり、楽しいなかにも、有意義な親睦旅行でありました。

埼玉県・中国山西省

スポーツ交流に参加して

卓球部 酒井朋子

関東大会出場の際、八人によるリーグ戦でベスト四に残り、八月九日結団式が行なわれ、十九日から二十五日までの七日間、埼玉県選手団として、中国山西省とのスポーツ交流に参加させていただく事ができました。

予定では、十八日成田空港を発するはずでしたが、北京に台風が接近していたため欠航となり、空港近くのホテルに一泊し、十九日出発となりました。

北京到着後、中国民航機で太原へ向かい、翌二十日、二十一日の二日間、山西省選抜チームと合同練習そして親善試合をさせていただきました。

試合は、一ダブル四シングルの団体戦で行なわれ、結果は二日間とも、五対〇と完敗してしまいました。が、今まで見る事のできなかつた、本場中国の卓球というものをこの目で見、また身体で知る事ができ、感激いたしました。

同時に、私達埼玉県選抜チームそして埼玉県の卓球は学ばなければならぬ所が、たくさんあるという事を痛感いたしました。

試合後の控室では、私達は中国語を話す事は、できませんし、山西省の選手達も日本語を話す事はできません。けれども、筆談や身振り手振りから始まり、私達は中国語をそして山西省の選手達は日本語を必至で覚えようとしていました。そうしているうちに、私達は卓球をしている仲間なのだ、友達なのだという意識が生まれ、言葉の違いや国の違いなどは、頭から消えていってしまいました。

レセプションの時にも、大変素晴らしい歓迎をしていただき私うれしさで胸一杯になりました。そして、二十二日太原を後にし大同へ向かいました。一三九二年につくられたという九竜壁の見学、一五〇〇年前につくられた、雲崗の石屈を見学しましたが、すべてスケールの大きさに、驚かされました。

二十三日、大同から夜行で十一時間、二十四日早朝北京に到着、あいにくの雨でしたが、万里の長城・十三陵を見学、そして二十五日、天安門を見学し帰国いたしました。

(次頁に続く)

児玉高校内食堂

日新商事株式会社

日新給食センター
社長 江原貞治 (第18回卒)

児玉町大字八幡山171
☎ 72-0079・3933

共同石油株式会社特約店

阪本石油株式会社

児玉第一給油所 児玉郡児玉町大字児玉 63
☎ (04957) ② 0159
児玉第二給油所 児玉郡児玉町大字吉田林380
☎ (04957) ② 1274
長 壽 給 油 所 秩父郡長壽町長壽 1035
☎ (0494) ⑥ 0335



中国の人々、文化、生活に接してみても、すべての人達が十分な生活をしているとは、とても思えませんでしたが、自分なりに、生きがいをもって暮らしている様に見えました。生きがいをもつという事は大変素晴らしい事と思います。日本に生まれ、日本に育った私が、中国で暮らす事はできないでしょう。しかし、この七日間で得たものを今後の私の人生の糧として、大切にしたいと思えます。

七日間という短い間ではありましたが、私にとって生涯忘れられない事がない経験を見せていただく事ができました。皆様のおかげと思ひ御礼申し上げます。

一九八五年八月

同窓会報 発行に寄せて

高四 福島栄一

先日、児高同窓会事務局の役員の方が見えまして、此の度、新制高校発足以来始めて同窓会報を発行する事が決った由にて、就いては私に何か一筆書いてもらいたいとの依頼を受けました。

私が同窓会員になりましたのは、もう三十余年も昔のことです。その後同窓会の行事には、最初の一回参加しただけで、以後種々の事情により、新校舎建設の際の寄付金集め以外は、同窓会の行事及び親睦会等に一切顔出しをしていません。その私が今回同窓会報を発行するに当り、私のような非協力者が寄稿することになり甚だ僣越至極で、おこがましい限りに思っています。

扱、会報発行の下準備をしていただいた事務局員の皆さん、それぞれお忙しいお仕事の傍ら大変なお骨折りを頂き誠に御苦労様でした。切角会報発行に漕ぎつけたのですから二・三回で休刊にならなように頑張って下さい。

発行回数が多いと事務局員の負担が大きくなり長続きしづらくなると思えますので、年に一・二回の定期発行が適当ではないかと私は考えています。

昔から「去る者は日々に疎し」

と言う例えが有ります。卒業して年月が経つにつれて仕事の忙しさにかまけて母校のことなどつい忘れがちになります。まして故郷を遠く離れてしまわれた人達は、余計にそうだと思います。そのような人達にたまにでも、自分の多感な青春時代の一時期を過ぎた母校の事柄を知るのに役立つ会報が配布されれば、懐しく喜んで読んでもらえると思います。

事務的には、この仕事に携われる人数、郵送の費用、どの程度の範囲に配布するのか等、大変難しい問題が沢山あると思います。兎に角、会報発行のゴサインが出たのですから、細く長く続きますように事務局員の皆さんの並々ならぬ熱意と努力によりまして同窓会報が順調に軌道に乗りますことを心から願ひ、併せて児高同窓会員の親睦の輪が、益々大きく広がって行く事を心から願っています。

終りに同窓会々員諸兄弟の御健勝を心からお祈り申しあげます。

“名称募集”

会報の愛称を募集しています。高女時代には、「雉ヶ岡」、「玉みささ」等ありましたが、児高同窓会にふさわしい名称にしたいと思ひます。皆様のご協力をお願いいたします。12月31日までにハガキで事務局まで、名付親に記念品贈呈(多数の場合抽選で1名)

催しもの お知らせ

◎ 親睦旅行

と き 昭和60年11月17日(日)

18日(月)

集合・出発場所

1. 児玉高校8時

2. 本庄駅南口8時20分

3. 東京駅丸の内南口は

とバスのりば10時30分

伊豆・修善寺温泉

金龍 0558

7270600

20,000円(宿泊・昼食・バス・見学料)

のりもの 大型観光バス

見学場所 三島大社、修禅寺、横

浜中華街等

※お申込切 60年10月27日

◎ 新年会

と き 昭和61年2月1日(土)

午後3時より

ところ 本庄市埼玉グランドホテル

ル 0495721

かいひ 3,000円

※お申込切 61年1月17日

◎ 総会 (昭和61年度)

とき 昭和61年4月20日(日)

集合・出発場所

1. 児玉高校8時20分

2. 本庄駅南口8時40分

ところ 東京千代田区、帝國劇場

地下1階(帝國劇場、浜田屋)

① 03/216/24

5 8

かいひ 4,000円(バス、昼食、懇親会費)

コース

1. 帝國劇場公演観劇、「屋根の上のバイオリン引き」

森繁久弥主演、入場料、A席11,000円

2. 都内バス遊覧、浅草寺、旧浜離宮庭園、泉岳寺等を希望により見学

3. 自由行動、銀座で買物等自由見学、15時30分まで

※お申込切 61年3月20日

なお、観劇の切は予約のため60年10月27日の午後3時~5時まで

濱田屋へ集合

(催しもの申込先)

一、事務局石井、児玉高校内

0495721591

二、星野親睦委員長、

52222811

どちらかに切日を確認の上、お申込下さい。

ひよひよ

新井いと子

長い間お世話になった児玉高校を退職したのが昭和五十四年三月。早いもので六年の歳月が流れた。それは二十四時間を全く自分一人のために使うことのできる自由な有り難い日々であった。日ごろは欲なければ一切足り求むるあれば万事窮すという良寛の詩句を座右の銘としながらも、私は食欲に心の栄養を貪りはじめた。そんな私に多くの人々は手をさしのべて下さった。さながら雲の上を歩いている心地で生きるといふことは何とすばらしいことよ、としみじみ思ったものである。ところがその充実感に挫折がきた。視力の減退である。へ白内障へつねに目の前は霧かすんでいて、風景などは時に幻の世界を見るような趣もあるが困るのは読書。元來読書は私のいちだのだからそれが苦痛になりつつあるのだからたまらなく寂しい。考えてみればやり直しのきかないたつた一度の人生である。しかも残生は短かい。短かいのちをよりよく生きるためには自分の世界は自分で開くしかない。やはり私は自分のいのちの在り方に従っ

て生きよう。かすむ眼を凝らしつつ虫めがねの奥の活字を追いつつ未知の世界を探つてゆこう。万葉の山野にあたたかく私を迎えてくれるし、今も昔も変わらない人のこころの哀歎、汲みとれば、今日の生を慰められ明日の生への希望も湧く。そして私は愛すべき多くのいにしえびとに語りかけよう。



旧校舎

日本工業規格表示許可工場

(株) 児玉生コン

立川源定 (高6回卒)

TEL 72-3072

料亭

二葉

梅沢 仁 (高3回卒)

児玉町 TEL 72-1007

会報の発行に思う

高校17回 石井敏郎

「なつかしき吾が学舎、創立以来正に満十年、その間一年と向上発展して、今は県立高女として名実共に東北女子教育の殿堂となった。」

過去十年は創業苦難の結晶である。そこには多くの先輩の尊き苦心と努力とが刻まれている。此に集う学友は、常にその恩恵に感激し、善美なる未来の建設に努めている。

卒業生四百、外に職に従うもの、内家事にいそしむもの、皆よく其の天分を守りまめやかに婦女の正道を進んでいる。そして、母校を中心として相結ぶ同窓会は実に力強い母校の愛護者となった。

此の同窓会と学友会、一はその姉であり、一はその妹である。姉妹相結ぶ友愛の情と母校を思慕する心持が相結んで、此に会報を発行することになった。会員諸子が久しく期待していた会報が生れたのである。

あゝ吾等の会報は生れた。これこそ我が学友会と同窓会とを環る友和の泉である。無限に伸びゆく母校の伴侶である。吾等はその健全にして永遠なる生長発達を祈る

ものである。

これは昭和七年十一月に同窓会と学友会で発行した、会報創刊号の「巻頭の辞」です。三年前会員名簿作成の際発見したのですが、貴重な資料であると共に同窓会の精神を表現したものとしてみごたであると思います。会報の内容も充実しており、母校の教育状況や会員の消息など生き生きと記載されています。

私自身、卒業と同時に母校に就職、事務職員の立場で、また同窓会事務局の一員として二十数年間、児玉高校の歴史を見つめられたことを感謝し、また貴重な文書に接する時、感慨深いものがあります。これからは母校と共に自分の人生を歩んで行くつもりで頑張りたいと思います。

現在、児玉高校の歴史を語るものが年々少なくなっており、過去のなつかしく求めるだけでなく、現在及び未来に継続するものとして先輩達の足跡を学ぶべく、資料室の整備を始め、できうる限りの資料の収集と保存、公開をはかり、後輩達に伝えて行くことが必要であると思います。

創立以来六十有余年を経過した今、また同窓会報が発刊できることの喜びと不安、人と人とのつながりの不思議さを感じながら、会報が皆様の輪となり、大きく広がって行くことを望みます。

編集後記



久しぶりに会報を発行することができました。発行にあたり多数の皆様の御協力を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

会員も一万余名となり各地で活躍しておりますが、この会報がパイ役となれば幸いです。

会員全員にお渡ししたいのですが、経費等の理由により、当面不可能なので御了承下さい。

会員の住所等の変更がございましたら事務局へ御連絡下さい。

会報の名称も募集しております。どしどし応募して下さい。どのような名称になるか、たのしみです。

印刷・出版

(有) 暁光社

大沢貞夫(高4回卒)

児玉町蛭川173 TEL 72-0414
22-3024

児玉清掃株式会社

児玉町大字児玉2485番地の1

☎ 0495-72-1038 〒 367-02

代表取締役 田島さく

ビル一級管理士 田島敏包
浄化槽維持管理士 (昭41年卒)